

輸送動向について(6月分)

平成18年7月

1. 輸送概況

今月は中旬に大分県中部地方を震源とする地震が発生した他、下旬には九州・中国地区で活発化した梅雨前線にもたらされた大雨や山陽線幡生駅での機関車脱線事故等による輸送障害が発生し、高速貨62本が運休した。

荷動きについては、上旬は比較的堅調に推移したものの、中旬以降は輸送障害の影響があった他、全国的な天候不順が荷動きに影響した部分もあり低調に推移し、輸送量全体では前年比97.9%となった。

コンテナ貨物では、災害の影響を大きく受けた積合せ貨物等の他、食料工業品などが前年を下回ったものの、堅調な出荷が続く紙パルプ等の他、自動車部品、エコ関連物資などが前年を上回り、コンテナ全体では前年比102.3%となった。

車扱貨物では、石灰石及び化学工業品などが前年を上回ったものの、灯油・重油が大きく減送となった石油、及び一部区間で輸送終了となったセメントなどが前年を大きく下回り、車扱貨物全体では前年比90.4%となった。

2. 輸送実績

(単位:千トン、%)

種別	月計		前年比	年度累計		前年比
	本年実績	前年実績		本年実績	前年実績	
コンテナ	1,871	1,829	102.3%	5,590	5,434	102.9%
車扱	978	1,082	90.4%	3,065	3,229	94.9%
計	2,849	2,911	97.9%	8,654	8,663	99.9%

3. 品目別輸送実績表

(単位:千トン、%)

種別	品目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品	96	97	-1	99.0%
	生野菜青果物	29	26	3	111.5%
	化学工業品	184	178	6	103.4%
	化学薬品	144	144	0	100.0%
	食料工業品	305	310	-5	98.4%
	紙パルプ等	314	291	23	107.9%
	他工業品	139	135	4	103.0%
	積合せ貨物等	207	215	-8	96.3%
	自動車部品	60	54	6	111.1%
	エコ関連物資	35	27	8	129.6%
	その他	358	352	6	101.7%
コンテナ計	1,871	1,829	42	102.3%	
車扱	石油	578	641	-63	90.1%
	セメント	73	117	-44	62.7%
	石灰石	68	57	11	121.1%
	車両	103	108	-5	94.9%
	紙・パルプ	30	46	-16	64.9%
	化学工業品	55	43	12	126.8%
	その他	72	70	2	102.0%
車扱計	978	1,082	-104	90.4%	
合計	2,849	2,911	-62	97.9%	

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)